

【2021 年度/専門科目領域/専門科目群/作業療法学科】

科目名	ナンバリング	区分 (必修・選択)	単位数	履修年次	開講学期等
作業療法演習 I-1		必修	1	2	前期
担当教員	研究室	電子メール ID	オフィスアワー		
中西 康祐 他	C310	knakanishi	水曜日 5 時限		
授業の目的・概要	作業療法演習 I-1 では、ICF を軸に 1 年生で習得した専門基礎知識の体系的理解、および ICF を用いた生活モデルを基盤とした作業療法評価の習熟を目標とする。授業は原則、面接授業で実施する。				
学習上の助言	本科目では 1 年次で学習した解剖学・生理学・運動学ならびに臨床医学・作業療法専門科目で習得した知識をベースに、その知識の深化と ICF の理解および連動性を学ぶ。よって、すでに習得した専門知識が定着していることが大切である。そのため、適宜の復習等の学習計画の立案と実行が特に求められる。				
教科書	ICF 国際機能分類 –国際機能分類改訂版– 編：障害者福祉研究会 中央法規出版 2008 脳卒中の機能評価—SIAS と FIM [基礎編]、千野直一 他、金原出版、2012 [2 冊指定]				
参考書	特になし				
学生が達成すべき行動目標				関連卒業認定・学位授与方針	
①	1 年生で学んだ専門基礎知識が定着し、ICF を理解できる。			HSU(2)、OT(2)(3)	
②	これまで学んだ知識を ICF と連動させ評価に生かせる。			HSU(2)、OT(2)(3)	
③					
④					
⑤					
⑥					
授 業 計 画					
回	学習内容等	授業の方法	学習課題・学習時間 (時間)		
1	オリエンテーション (ICF、ポートフォリオについて)	講義・演習	事後：配布資料を復習する 前期の学習計画の立案	1	
2	ICF の基礎を学ぶ	講義・演習	事前：ICF の概要を読む 事後：学習資料・教科書の復習	1	
3	ICF の活用方法を学ぶ	講義・演習	事前：ICF の項目立てを読む 事後：学習資料・教科書の復習	1	
4	ICF を用いて専門基礎知識を体系的に理解する (ICF の心身機能・身体構造と解剖学・生理学の連動) ①	各教員について演習	事前：解剖生理学の見直し 事後：体系的理解の復習	2	
5	ICF を用いて専門基礎知識を体系的に理解する (ICF の心身機能・身体構造と解剖学・生理学の連動) ②	各教員について演習	事前：解剖生理学の見直し 事後：体系的理解の復習	2	
6	ICF を用いて専門基礎知識を体系的に理解する (ICF の活動・参加と解剖学・生理学・運動学の連動) ①	各教員について演習	事前：解剖生理運動学の見直し 事後：体系的理解の復習	2	
7	ICF を用いて専門基礎知識を体系的に理解する (ICF の活動・参加と解剖学・生理学・運動学の連動) ②	各教員について演習	事前：解剖生理運動学の見直し 事後：体系的理解の復習	2	
8	ICF を用いて専門基礎知識を体系的に理解する (疾患の症候について ICF を用いて理解する) ①	各教員について演習	事前：疾患の基本を理解する 事後：体系的理解の復習	2	
9	ICF を用いて専門基礎知識を体系的に理解する (疾患の症候について ICF を用いて理解する) ②	各教員について演習	事前：疾患の基本を理解する 事後：体系的理解の復習	2	
10	事例基盤型学習 (ICF を用いた評価) ストーリー①	各教員について演習	事前：評価該当箇所の確認 事後：事例評価を整理する	2	
11	事例基盤型学習 (ICF を用いた評価) ストーリー②	各教員について演習	事前：評価該当箇所の確認 事後：事例評価を整理する	2	
12	事例基盤型学習 (ICF を用いた評価) ストーリー③	各教員について演習	事前：評価該当箇所の確認 事後：事例評価を整理する	2	
13	事例基盤型学習 (ICF を用いた評価) ストーリー④	各教員について演習	事前：評価該当箇所の確認 事後：事例評価を整理する	2	
14	事例基盤型学習 (ICF を用いた評価) ストーリー⑤	各教員について演習	事前：評価該当箇所の確認 事後：事例評価を整理する	2	
15	事例基盤型学習 (ICF を用いた評価) ストーリー全体のまとめ	各教員について演習	事前：評価結果全体の整理 事後：評価全体をまとめる	3	
試	筆記試験				

【2021 年度/専門科目領域/専門科目群/作業療法学科】

総合評価割合 (%)		達成度評価					合計
		試験	レポート	成果発表	ポートフォリオ	その他	
		50	0	50	0	0	100
総合力指標	知識・技術力	40	0	20	0	0	60
	思考・推論・創造する力	10	0	10	0	0	20
	協調性・リーダーシップ	0	0	0	0	0	0
	発表・表現伝達する力	0	0	10	0	0	10
	コミュニケーション力	0	0	0	0	0	0
	取組みの姿勢・意欲	0	0	0	0	0	0
	問題を発見・解決する力	0	0	10	0	0	10
評価のポイント							フィードバックの方法
評価方法	行動目標	評価の実施方法と注意点					
試験	①	✓	事例の生活を阻害している因子が ICF のどの項目に該当するかを問う。指定された教科書の持ち込み可とする筆記試験。				試験後あるいは総括にて実施する。
	②						
	③						
	④						
	⑤						
	⑥						
レポート	①						
	②						
	③						
	④						
	⑤						
	⑥						
成果発表	①	✓	事例基盤型学習において ICF を用いた評価をレポートにまとめる。レポート作成過程やレポート内容をルーブリックで評価し、知的スキルの習熟度等について問う。				事例検討の演習において、指導教員からその場でフィードバックする。
	②	✓					
	③						
	④						
	⑤						
	⑥						
ポートフォリオ	①		ポートフォリオは個々の学習管理に用いるが、成績評価とはしない。				
	②						
	③						
	④						
	⑤						
	⑥						
その他	①						
	②						
	③						
	④						
	⑤						
	⑥						
備 考							
<p>担当教員：◎中西康祐、小沢健一、山鹿隆義、榎田哲弥、浅野克俊、海保享代、池谷政直、渡辺俊太郎</p> <p>授業形態：この科目は登校による面接授業で実施する。大学が公表している感染対策および教員が示す授業方法を遵守すること。問題がある場合は面接授業の参加を認めない。</p> <p>履修に関して：この科目の単位修得が作業療法演習 I-2 の履修要件になる。</p> <p>教員の実務経験：本科目の担当教員は 5 年以上の臨床業務経験がある。</p> <p>実践的授業の内容：配布資料と併せて、臨床における治療で得た知見に基づき作業療法に必要な基本的知識を適宜教授する。</p> <p>今後の新型コロナウイルス感染症の状況など、社会情勢等によって再度シラバスの変更もあり得る。</p>							